

令和元年度(平成31年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|-------------------|
| 事業名 | 南信州民俗芸能継承推進事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 南信州民俗芸能継承推進協議会 |
| 事業区分 | (3)教育、文化の振興に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 2,000,000 円 |

事業内容

1 民俗芸能フォーラムの開催

地域住民を対象とした民俗芸能発表や継承活動事例の発表を実施

開催日 令和元年10月5日(土)

会場 飯田市県文化センターホール

内容 講演、パネルディスカッション、実演

参加者 80名



【國學院大學における実演】

2 伊那民俗学研集会の開催

関係機関との連携による講座研究会を実施した

開催日 令和元年10月13日(日)・14日(月祝)

会場 飯田市美術博物館 講堂

内容 「地域画像アーカイブの可能性」講演、事例発表

受講者 71名(2日間延べ人数)

3 出張講座の開催

長野県立歴史館と連携し中信を対象とした出張講座を実施した

開催日 令和元年10月20日(日)

会場 安曇野市堀金公民館講堂

内容 「南信州の民俗芸能」講演

受講者 25名

4 國學院大學における民俗芸能体感講習会の開催

首都圏在住の南信州出身者や学生・研究者を対象として、天龍村向方お潔め祭りの体感・講習会の実施。

開催日 令和元年11月9日(土)

会場 國學院大學 常磐松ホール

参加者 180名

内容 講演、実演「向方のお潔め祭り」向方のお潔め祭り芸能部

5 情報発信環境の整備

ホームページの情報発信機能を充実させ、保存会の活動内容やブログを常時発信するためIDを製作した。

6 啓発グッズの製作と活用

啓発グッズとしてピンバッジを製作し、民俗芸能の継承に関わる関係機関や団体の長などに配布した。ピンバッジをつけてもらうことで、継承活動の認知度を高めた。

7 企業との協力体制の構築及び充実

パートナー企業登録数の増加をつた(R1.11.28 82団体・事業者)

民俗芸能団体の課題と企業の特性を活かしたマッチングを試行した。

黒田人形(飯田信金、多摩川精機)、坂部の冬祭り(旭松食品)、新野の雪祭り(旭松食品、喜久水酒造、キラヤ、丸昌稲垣、マルマン)

8 教育機関との連携

小学校や中学校が民俗芸能や祭りの歴史や意味を学ぶことができる解説ページを製作しホームページに掲載した。

また、追加事業として民俗芸能に親しめるよう、令和2年の民俗芸能カレンダーを作成した。

【目標・ねらい】

民俗芸能を古くからの地域コミュニティの形成の役割と新たな地域振興に活用することで、将来への継承に繋げ、「醍醐味(真の価値)の普及と共感(響感)の輪の拡大」を推進する。

事業効果

県内外において民俗芸能をテーマとした研修会を実施。民俗芸能の継承活動を通じて民俗芸能を見つめ直す機会とし、改めて地域全体で民俗芸能継承の意義を共有した。

参加者・受講者数

民俗芸能フォーラム 参加者80名

伊那民俗学研集会 受講者71名(延べ人数)

出張講座 受講者25名

民俗芸能体感講習会國學院大學 参加者180名

※自己評価【B】

【理由】

民俗芸能を見つめ直す機会を創出し、地域住民の民俗芸能に係る意識の醸成を図ったため。

今後の取り組み

地域住民が地域の貴重な財産である民俗芸能を将来にわたり継承するため、引き続き民俗芸能を見つめ直す学習会等を創出する。

若者の発表の場を創出することで若者の意欲を向上させ、保存会及び民俗芸能の継承に繋げていく。

保存会の課題解決を地域全体で解決するため、パートナー企業と連携し様々な支援を実践していく。

継続的な事業を展開するため、専門職を含めた事務局体制の強化について検討を進める。